



久山町長
西村 勝

三つの健康づくりを続けることができているのも町民の皆さまのご理解、ご協力によるところが大きいと考えています。

健診だけでなくワクチン接種についてもそうです。他の自治体で順調に進まない理由は、キャンセルが多過ぎて、調整に時間を取られたり、ワクチンが無駄になったりしたからという報道をよく耳にします。幸いにも、久山町は、それがほとんどありませんでした。

二宮教授 今どきの言葉で言うところの「ソーシャルキャピタル」の高い町だと思えます。いわゆる社会的な人間関係や、規律を守ろうとすること、人々のネットワーク、そういったことがきちんと保たれています。近年、ソーシャルキャピタルという概念が健康政策において重要視されてきています。一方、久山町は高度経済成長期の時代からこの点を大切にして、社会の健康、いわゆるソーシャルキャピタルを自然と作り上げてきました。そこがすばらしいと感じます。

西村町長 新型コロナウイルス感染症により、環境、人とのふれあい、体のケアの三つが注目されましたが、全て本町が長年取り組んできたことです。その結果、久山町は今「SDGs」を体現した町」としてさまざまな分野から注目されています。

— 次のステージは —

西村町長 体の健康だけでなく、楽しみや、人と人がふれあう場所、機会を作り出し、心の健康づくりを進めていくことが必要な時代が来ています。最終的には楽しみを軸に置かないと、「人と話そう」「出かけよう」とはなりません。それを念頭に、健康が実感できる町を創造し、残していくことが大切です。

二宮教授 おっしゃるように、これまでの久山町の健康行政の方針、九州大学の研究方針、開業医の先生を中心とした三位一体の関係に加え、楽しみを軸に健康づくりを行うことは重要です。多様性のある社会の中で、さまざまな人の楽しみを作るには、もっと知恵を絞らなくてはいいかもしれません。

西村町長 問題は、いかに健診データを町民の皆さまの「暮らしの豊かさ」に結びつけ、「見える化」しているかということです。また、自分が、社会とどう関わっているかということ、形にす

必要もあります。この取り組みの優れた点は、自分たちの健康はもとより社会に貢献する研究だということです。それを始めた町だから、当然続いているかなくてはなりません。

二宮教授 認識されにくいのですが、実は、町民の皆さまのデータが世界の健康のために役に立っています。どんな形で見せていくかというところは本当に難しいですね。

西村町長 平成30年から高齢化率が下がりはじめ、令和2年国勢調査の人口増加率も全国で第10位になっています。先生がおっしゃったように将来を見据えたまちづくりの成果が今出ていると思います。

今年は、今までのまちづくりを継承しながら変化させる、そのスタートの年です。住民の皆さまに必要なサービスを実施しながらも、長期的な展望を持った事業も実施する、時代の変化に対応するまちづくりを行っていきます。

二宮教授 久山町は、日本の10年進んだ町のモデルです。このリードをキープし、健康のまちづくりにつながる研究を進めたいと思っています。

まずは、CTをC&Cセンターに導入することで、ロコモティブシンドロームや将来的には、がん検診なども実施したいと考えています。

これから重要になってくるのは、生活習慣病の予防・管理だけでなく、口



ひさやま健康ライブラリーにて

謹賀新年

皆さまにおかれましては清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年が皆さまにとりまして幸多くすばらしい一年となりますよう心より祈念いたします。

— 昨年を振り返って —

西村町長 まず、皆さまのご支援のおかげで就任1年目を終えることができましたことに感謝いたします。また、昨年は、多くのの方々に協力いただき新型コロナウイルスワクチン接種をスムーズに実施できました。今、地域医療が注目されていますが、本町が長年取り組んできた、健康のまちづくりが形として見えた、そんな1年だったと感じています。

二宮教授 そうですね。昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という困難な状況下でしたが、順調に健診も終了し、ワクチン接種も速やかに、混乱もなく行われました。行政と町民の皆さまの信頼関係ができていて、そこが大きいと感じます。

— この町の魅力は —

二宮教授 町民の皆さまは、気軽に声をかけてくださいます。研究者と対象者という関係だけではない、そういうところが居心地が良いです。

西村町長 地域が、顔の見える関係で成り立っているということが、先生の言葉からも分かりますね。それは町民の皆さまだけでなく、九州大学の先生方、開業医の先生方、私たち行政にとっても、一番の原動力になっているのかもしれません。

二宮教授 他にも、自然豊かな所も好きですね。名店も多い！久山町は食と趣味で楽しめる町です。

西村町長 最近では、久山町で「お店を開きたい」「住んでみたい」という声が増え、カフェなどのお店もオープンしています。自然だけではなく、健康づくりも含めた住環境が充実し、その上、楽しみもある町は、他には無いと思います。

— 60周年を迎えた生活習慣病予防健診事業の成果は —

二宮教授 町民の皆さまの健康状態が本当に良くなっている、当初、問題であった脳卒中自体も、発症される方の割合が非常に少なくなっています。

また、一番驚いたのは、要介護・要支援率が他の自治体に比べて低く、さらに近年低下傾向にあるということです。この結果は、類を見ません。本町に、皆さま健康的になっていると思います。

実際、血圧管理率の平均を比べると、10年前の久山町の値が今の日本の値です。まさに久山町は、10年進んだ町です。健診の数字をもとに、自分の健康を見つめ直し、健康的な生活をしようとする、これが今の成果につながっていると、私は感じています。

西村町長 やはり、国土・社会・人間の



九州大学大学院 医学研究院
衛生公衆衛生学分野
二宮 利治 教授

コモ、いわゆる足腰です。歩いて外に出て、人と交わる、これが認知症の予防に一番大事だと思っています。これまでの取り組みに加え、新たな健康への知見を得たいです。

西村町長 今年は寅年ですが、草木が伸び始め、成長する年と言われています。先生と私は近い世代ですし、機を逃さず町の発展に向けてお互い頑張りましょう。

二宮教授 はい。頑張りましょう。

*注釈

(1) ソーシャルキャピタル：地域における人々の信頼関係や結びつきを表す概念。

(2) SDGs：持続可能な開発目標の略称で平成27年の国連サミットにおいて採択されたもの。

(3) CT：コンピュータ断層診断装置のこと。

(4) ロコモティブシンドローム：立つ、歩くといった機能・移動機能が低下している状態のこと。